

「上山城」からのたより 初秋・第76便

金森時代の森林調査「山改帳写」

土岐氏の転封とともに上山城が破却され、金森氏が上山藩に入部してから三百二十数年が経つ。在藩期間はわずかに約五年と短く、記録に残る業績はそう多くはない。前任地の飛騨高山は、当時から良質な材木の産出国として

全国に知られていた。それ故、幕府は豊富な森林資源を直轄地とするために金森家を上山藩へ所替を命じたともいわれている。

金森家が上山領内でおこなった施策に「山林



山改帳写

地籍調査」があげられる。飛騨高山において金森家は代々、山林の保護と良質な材木の産出を主たる施策としており、それを踏襲して上山領内でも行ったものと考えられる。その記録がこの「山改帳写」(*)である。

金森時代の上山藩の領地は上郷、中郷、下郷の三郷に区分されていた。この山改帳には上郷約一七、四〇〇石に該当する森林の詳細が記されている。上郷はほぼ現在の上市市(山元、中山、金瓶地区を除く)と同等の地域で、それぞれに村名、各村に附属する山の名称、主要な樹木種や山の境界、村付山と年貢山の区別、山守人の名前などが記されている。樹木の種類をみると、当時上山領内の主要な財源と考えられた樹木は松、漆、雑木であったようである。金森家はまもなく郡上八幡に転封を命ぜられ、この山林調査を藩政に生かすことができたのかは不明である。

※この資料は上市市史編集資料(三六)に掲載されている資料の写しと考えられ、記載内容はほぼ同じである。

公益財団法人上山城郷土資料館

学芸員 大場 浩子

【常設展示室より】この資料は2階第3展示室で平成二十七年十月まで公開しています。